

Dental Anti-Aging

Dental Anti-Aging

# 華齡 *Aging Science*

日本アンチエイジング歯科学会誌

Official Journal of Japan Society for Dental Anti-Aging



ISSN 2186-3571

**JSDA**

Japan Society for Dental Anti-Aging

日本アンチエイジング歯科学会

<http://www.jd-aa.net/>

## アンチエイジングアワード2013受賞記念

受賞者：  
ジュディ・オング

松尾 通(会長)  
中原悦夫(常任理事・編集委員長)

- 日時：2013年5月18日(土)
- 場所：ヒルトンホテル東京ベイ



### 版画制作にかける思い

**松尾** ジュディ・オングさん、2013年度アンチエイジングアワード受賞おめでとうございます。私たち大変嬉しく思っております。アワードは今年で7回目になりました。受賞条件は、いい歳の刻み方をしていること、社会的に知名度があり活躍されていること、心身ともに菌科的にも健康であることが基準になります。今日お見えになっている野田一夫先生も「ジュディは心身ともに完璧だ、歯もいいよ」とおっしゃっていました。

**ジュディ** ありがとうございます。お蔭様で私は全部自分の歯です。90歳の父もそうです。

**中原** ジュディ・オングさん、本当におめでとうございます。今日はよろしく願いいたします。

**ジュディ** こちらこそよろしく願いいたします。

**中原** 先日、娘を連れて静岡(駿府博物館)でジュディさんの個展を拝見し、感銘を受けてまいりました。特に前から拝見したかったのが、平等院の「鳳凰迎祥」で、奉納されているから見せてもらえないだろうなと思いつつ、一回、平等院まで行こうかなと思っていたのですが、ちょうど静岡で展示されていたので、感動しました。あと、「たったひとつのTonight」で目がとまりくぎづけになってしまいました。

**ジュディ** そうでしたか、ありがとうございます。

**中原** どの作品も構図が実に素晴らしいですね。一つず

つ、パーツパーツでよくここを捉えられたなと感心しています。どうやって構図はお選びになるんですか。

**ジュディ** その現場に行って、自分の目で「あ、ここだな」と思うと、大体そのときには決まっていますね。

**中原** なるほどね。題材が木と民家と、木造建築とあとは草花ですね。木版画で表現されるというのにすごく興味を持ったんですが、何かその辺の因果関係とかはございますか。

**ジュディ** もともとは油絵を描いていたんです。ある時、友達に誘われて井上勝江先生の個展を見に行きました。すごくモダンな、大きな花の白黒の版画で、とても衝撃を受けました。そこから版画をやりたいとの思いを抑えることができなくなり、始めるようになりました。

私自身はずっと若いときから京都に撮影に行っていたので、日本家屋に触れるチャンスが非常に多くて、日本家屋ファンになっていたんです。

**中原** そうですか、そういうことなんですね。

**ジュディ** 小さいとき日本に来て、お隣のミヨちゃんのうちにはちゃぶ台があるんですが、私のうちは全部、下にじゅうたんを敷いて机と椅子になっていたんです。それがお隣に行くと、畳で、ちゃぶ台があって、それがいいなとずっと思っていました。

小さいものは花の絵が主だったのですが、大きい作品は何がいいかなと思ったときに、建物がいい、そして、日本家屋をテーマにしたいと思ったんです。

**中原** 作品の制作過程を拝見しますと、最初はラフスケッチで、今度は色づけしてきちんと描かれて、最後の作品になるまでにだんだんクリアになってきますよね。特に版画の場合は、黒でまず枠取りをきちんとすること。

**ジュディ** そうですね、主版(おもはん)という初版を白黒でやるので、墨の版画です。

**中原** 油絵を見ているとスケッチの場合ははっきりしていても、何となく最後はいろいろぼかしが入ったりという

### Judy Ongg

- 1950年1月24日台湾生まれ。父の仕事の関係で3歳のとき来日、中華学校からアメリカンスクールへ進み、上智大学卒業。
- 9歳で「劇団ひまわり」に入団し芸能界入り。11歳で日米合作映画「大津波」で女優デビュー。歌手デビューは16歳。
- 1979年「冠せられて」でレコード大賞を受賞。
- 女優、歌手としてだけでなく、木版画家としても活躍。日本各地で木版画展を開催中。2012年、台湾での木版画展では来場者数が5万人を超えるなど、ますます注目される、元祖マルチリンガル・タレント。



ジュディ・オング倩玉：「鳳凰迎祥」第35回日展入選（2003年），2005年3月宇治平等院に奉納される ©HEEMORY

ことがあります。版画の場合、3～6カ月かかる作品の過程で、イメージの変化などは起きないものですか。

**ジュディ** 順番に説明いたしますと、最初に下絵というのを描きます。一番最初は小さいスケッチで、その次に原画、これが原寸です。ここで物事がはっきりしていないと彫れないんです。そこから全部色分けをしていきますので、緑なら緑の版、赤なら赤の版、黒なら黒の版と、全部同じ見当から絵が始まるようにするんです。彫り始めたらもうほとんど大きな直しはできません。ですから、この表現で行こうと決めたら、色の中では少しはコントロールしますが、構図は頭でぴしっと組まないと大変なことになってしまいます。

**中原** 版画は7～8版彫り上げるのですか。

**ジュディ** ええ、凝り過ぎると10版になってしまいますが、なるべく8版で終わるようにしています。ただ凝り性なので、どうしてもはみ出て1版出ちゃうことがあります。

**中原** 平等院の阿弥陀様を描くときに、目の前に張ってスケッチされたらどうしても進まなくて、気功の先生の助言を受け下に置いて描くとすうっと描けたというようなこ

とを聞きました。

**ジュディ** はい、人間というのは見えるだけの形で生きているのではなくて、見えないうちに実はすごいパワーがあるんです。もちろん五臓もそうですけれども、体の元というか、動かす基というのは「気」です。あとは言葉では説明のできない魂というものがわれわれを動かしています。その「気」と魂が動いていると人間は元気で、「気」が強いと若いんです。

ですから「気」が強いつもりで描いていたんですが、立って描いていると、どうしても目の前では描けませんので、体をちょっとずらして描いてしまいます。そうすると「気」が斜めに入ってしまうんです。真下におろす、そうすると真っすぐになります。作品を描くときには全身で統一して描いていますので、斜めに入ったら、「気」ってやっぱり斜めに入ってしまう。真っすぐ、立ててからおろす、立ててからおろすということは何回もやります。

**中原** 人物も真正面で見なきゃいけないということですね。ゆがんで見ちゃいけないと（笑）。

**ジュディ** 逆に、気の先生たちは、人と最初にお会いするときに、「気」をまともに受けないようにしようという

きは少し斜めに座りなさいと言います。そしてだんだん修正するんです。「気、風のごとし」と言いまして、見えないけれども感じるそうです。

**中原** 作品に向かうときは健康であることが必要になるんでしょうね。

**ジュディ** はい、心の健康が一番ですね。私はよく「永遠の25歳の精神を持つ」と言っています。探求心というか好奇心というものがある限り、人生は楽しいです。

目標に向かっていく努力を苦とせず、目標に到達する行程と思うとわくわくします。同じ人生なら、わくわく過ごしたい。そういうお話をしているときは大体目がきらきら輝いています。話したくないと思って話すと何か目が死んでますよね。

それと同じように、自分の人生に興味を持つとおもしろいと思います。わくわくすると「気」が回るといいます。絵を描いているときにそうです。思うようにいったときというのは心臓の鼓動が聞こえるくらい嬉しい。心が高鳴るといのはあのことを言うんですね。そういうときの絵はいい絵ですね。

**中原** 彫り上がった瞬間にある程度わかるものですか。

**ジュディ** 下絵がしっかりしている絵はやっぱりいい絵になります。迷っている絵、最後まで調整している絵は苦しい。

**中原** 版画でのお名前はジュディ・オング情玉(せいぎょく)さんとお読みしたらいいんですか。

**ジュディ** はい。

**中原** ジュディ・オングさんの名前を伏せて、翁 玉恵(おきな たまえ)さんという帰化名で日展に出展されて入選されたというエピソードがありましたか。

**ジュディ** 最初は日本板画院展に挑戦しようとしたんですが、「魅せられて」ができて時間がなくなってしまって、睡眠時間が4時間ぐらいですから、作品ができなかった3、4年の時間がありました。ともかく体の健康のほうを優先しましたので、でも4年ぐらいたつと少し自分の時間ができました。それで、日展に挑戦しようと思ったんです。

「魅せられて」がヒットしたことで、結構ジュディ・オングがあちこちで有名になり、ジュディ・オングで応募して落選したら格好悪いみたいな話になりまして(笑)。じゃあ帰化名で応募しちゃおうということで、そうしたらなんと入選したんです。

## ジュディバランス

**中原** 次にジュディ・オングさんの健康管理についてお伺いいたします。伝統的にご家庭は、お父様やおじ様の時代、ずっと医師の家系でいらっしゃるとか。



左：ジュディさん、右：中原

**ジュディ** 父のほうが医師の家系で、漢方と西洋医学をミックスしたのが祖父です。日本語はとても流暢でした。

**中原** 漢方というのは実は日本でできた概念で、本来は中国がルーツですが、中医学というと、1947年以降の中華人民共和国になってから新たに再編された医学で、われわれが通常聞く漢方とか鍼灸とかの伝統は、今は中国では全然違ったものになってきています。中華民国時代の前からずっと伝承的に伝わってきた、薬膳というものが本来の4,000年なり3,000年の歴史を踏まえていると聞いています。

さて、日本アンチエイジング菌科学会のテーマに「食育」が昨年から加わり、現在食の文化を見直そうとしているところです。台湾では食育をご家庭ですべてと伝授されているようです。

**ジュディ** はい、台湾では若い人も理解しています。小さいときから隣に座った親がその都度言うんです。

「今、あなたは熱があるから揚げ物はだめ。あげない」

熱があるときとか、喉の炎症など、体に火がおきているときは揚げ物を食べない、からしを食べない。熱を上げるものはなるべく食べないで熱を下げるものを食べる。たとえばトウガンとかゴーヤを食べます、キュウリ、大根もいいです。そういうことを隣にいる親に教えられるので、食育というのは家庭の中で常にありました。昔は日本にも日本独自の薬膳の食べ方、土地に合った食べ方があったわけですね。

しかし、近代化されてくる、アメリカナイズされてくると、プライバシーということでドアを閉めちゃう。今度は核家族になってみんながばらばらに住むようになる。それによって伝授されていくものが途絶えたというところは確かにある気がします。それをもう一回掘り起こすのが食育になるのでしょうか。

私は母と父、または祖母に小さいときから言われ続けた言葉が頭の中に入っているの、スーパーマーケットに行くとき、体を温める・ちょうどいい・冷やす「温・平・寒」というのが全部食べ物の上に見えるんですよ。これは熱が出るから食べないでおこうとか見えるんです、便利ですね。



松尾会長

**中原** じゃあ食育は小さいころからの習慣ですね。

**ジュディ** そうです。これからの時代、若い人たちにはそれを学び直してほしいと思います。いい言葉に上医治病[サンイーチュウウエイピン]があります。いいお医者さんは未来の病気を治す。ということは予防学がいかに大事かということです。

**松尾** まさしくわれわれの学会が目指しているのが、今おっしゃられていることです。

**ジュディ** 病気をするとなぜ年をとるかという、「気」というのは体の中にある軍隊であり、悪いところがあればそこに戦いに出てしまいます。そうすると若さを保つための軍隊が減ってしまい、年をとるんです。だからいつも若さを保つためには、まず軍隊がちゃんと全身に散らばっているような健康状態をつくっていくというか、守っていくというか、それが医食同源です。

**中原** そうということですね。実は、「医食同源」は日本でつくられた和製中国語という話を聞いたことがあります。昔からやっているNHKの料理番組がありますが、1970年代に「薬食」だと化学物質を食べているような、ちょうどあの当時は化学調味料、化学物質が入ったものという感じがしてイメージが悪いというので、「薬」を「医」にかえて医食同源と日本の医者が考えた。それで日本で定着したらしいのです。

「黄帝(内経)」から伝わってきた中医学の原点はBC 200~400年前という時代になると、これをいかに守るかで医学が発展します。四つの医者を世の中に生み、最初が食医、疾医(内科)、傷医(外科)、そして獣医と4段階になります。食医というのが一番、格が上だったらしいです。それが薬膳のルーツになっています。ですから、やっぱり食ですね。

**ジュディ** その話は初めてですが、すごく理にかなっていると思います。

**中原** われわれは薬膳というと、日本で食べるとなるとレストランへ行ったり、あるいはそういった指導をする医師のもとでレシピを教わってとか、なかなか入っていきませんが、

**ジュディ** 難しく考えないということが一番いいみたいですね。

**中原** そうということですね。

さて、ジュディ・オングさんは2000年に『ジュディバランス』という本を出版されていますね。この本を拝見して何種類か自分で挑戦したら、簡単につくれるので驚きました。

**松尾** バランスは食のバランスですか。

**ジュディ** そうです。バランスのいい食事のとり方がジュディバランスです。人間の体は、熱・温・平・涼・寒と五性を持っています。同じようにすべての食べ物にも五性があります。人間と食べ物のそれぞれの五性がバランスよくあること、それが健康の源だと思うのですが、多くの方々を知っていただきたかったので、温・平・寒だけにしたんです。

**中原** すごくわかりやすい。

**松尾** それはもっと普及させたほうがいいですね。

**中原** そうです。われわれの学会ではフードショーという特別なセッションをやっていますので、今度はぜひ講師でお越しいただきたいと思って拝見しました。

**松尾** われわれ歯科医は口を担当していますから、当然、食の管理までするべきだ、という学会の理念で年に1回フードショーを開催し、食に関するいろんな勉強を始めています。今はお弁当にまで挑戦しています。体にいいお弁当、アンチエイジング弁当ということで、担当の人は女医さんが多いのですが、メニュー作りからかかわっています。一度お弁当を見ていただきたいですね。

## 今後の目標・計画

**中原** 女優や歌手としてのジュディ・オングさん、木版画家としてのジュディ・オング侑玉さん。今後の活動で、目標あるいはまた何か新しく計画されていることがございましたらぜひお聞かせください。

**ジュディ** 歌のほうはアルバムの「LAST LOVE SONGS」を発表しまして、もっばらこれがいい感じに動いて、テレビ出演がだんだん増えています。版画はちょうど去年、大きいプロジェクトが一つ終わりました。台湾の國立國父紀念館で版画展を開催したところ5万3,000人が来ていただきました。

将来の話をしますと、感動というのは国際的なものであって、笑顔と感動は本当に果てしなくつながっていくと思います。感動というのは芸術であったり文化であったりするもので、自分が発表するものが、いつまでも人の役に立てるような人間でありたいと願います。

もう一つは、私は音楽をやって、芝居をやって、そして芸術に携わる人間として長年温め続けているプロジェク



ジュディ・オング倩玉：「紅樓依緑」第37回日展特選受賞（2005年） ©HEEMORY

トが一つあります。一度は現実の一步手前まで行きましたが、それは必ず実現できると思います。できると思うと、できる。それはミュージカルです。二つの言語でできるようにしたいと今は思っています。もう一回やります、日本語と英語で。アトラクションは一緒ですけど、今度はダブルキャストでやりたいと考えています。小さいものか

ら始めて少しずつ、そのプロデュースングに入るのも、もう一つの新しいチャレンジになると思います。

中原 それはぜひ実現していただきたいと思います。

今日は、われわれの学会にぴったりのお話をいただきました。ありがとうございました。ますますの御活躍を心から期待しております。

## 悲しくも美しい思い出は、素敵な大人の恋のきらめき

好評発売中！

先行シングル  
別離 わかれ



WPCL-11257 ¥1,000 (Tax In)

昭和を代表する失恋、悲恋ソングカバーアルバム

## LAST LOVE SONGS

～人には言えない恋がある～



WPCL-11258 ¥3,150 (Tax In)

1. どうぞこのまま (丸山圭子)
2. 異邦人 (大塚田幸紀)
3. つぐない (ナレヤナシ)
4. シルエット・ロマンス (大塚純子)
5. 終着駅 (真村幸三)
6. あなたならどうする (いしだあゆみ)
7. 別離 わかれ (メーナ)
8. 手紙 (山崎さゆり)
9. グッド・バイ・マイ・ラブ (アン・ルイス)
10. ラヴ・イズ・オーヴァー (飯島真理)
11. 魅せられて (2012 Version セルフカバー)

©ソニーミュージック

ワーナーミュージックジャパン <http://wmg.jp/>

ヒーモリ (ジュディ・オング事務所) <http://judyongg.com>